

第28回APLAC/MRA評議会、及び第17回APLAC総会 出席概要

平成23年9月20日
独立行政法人製品評価技術基盤機構
認定センター(IAJapan)

日時：平成23年9月14－16日 8：30～17：00

場所：ペニンシュラホテル（フィリピン、マニラ市）

日本からは、IAJapan、JAB及びVLACから10名が参加結果要点：

I. MRA評議会

1. MRA評価結果報告とMRA地位の確認

- 3機関は継続が承認され、是正に時間のかかっている1機関については今回の審議対象とならず次回の審議事項となった。

2. MRA評価進捗報告

IAJapan（12月評価実施）を含む7機関について報告（IAJapanがチームリーダーを派遣する評価も含まれていた）。

3. 今後の相互承認スコープ拡大について

現在MRA対象になっていない各メンバーの認定活動等についての調査報告。日本では行われていないForensic等の分野あり。各国とも相互承認外の独自認定プログラムを持っていることが多く、今後の活動を考える資料としては貴重。

今後の相互承認対象として画像診断等の分野が候補として挙げられた。ただ、これは初歩的な調査が済んだという段階で、今後は戦略課題として整理する必要。

4. MRAルール等

文書化WGから技能試験プロバイダー認定を相互承認対象とした場合のルール変更予想点の分析結果報告。それ自体については大きな問題が発生することは無いと考えられるが、今後、認定したプロバイダーの活動と認定機関が実施する技能試験との関係では詳細ルールを詰める必要があるそう。

II. 総会

1. 役員選挙：広報委員長はAGLASSのRogerに決定。理事は2ポストに対して4名（中台墨泰）から立候補。Nigel Jou (TAF:台湾)とBLQS-DMSc (泰)の方が選出される。北東アジアの空席が続いているのは残念。

2. 戦略プラン：既に4年が経過し、見直しスケジュールが提案される。来年総会で改訂

版を確定する予定。最上位にVisionがあり、これを達成するためのObjectivesが5項目挙げられており、戦略プランはその下の概念となる。議論ではVisionに踏み込んだコメントもあったが、この部分は簡単には変わらない印象。

3. 今後の活動計画

4つの委員会の下位の小委員会やWGが活性化：課題が多い。そのような活動をどう組織したら良いかについて協議。メールベースの会議で推進すべきというコメント、実際に顔を合わせる会議機会を増やすべきとの意見等様々。今後の検討課題。

4. PACとの協力

本来、他の機関との協力の中で軽く触れて終わる案件であったが、今回、今後PACとの合同総会を開催するかについて活発な質疑。大勢としては賛成する機関が多いものの、一方で米国の多くの機関のように会期が長くなるだけで全くメリットの無い組織もあり、要検討。特に認証機関を認定している機関との組織統合の話は欧州法令を含めて大きな問題であり、APLACとしても重要課題であるため、今回は全体の意見を一通り聞いて今後の協議材料とする姿勢。

以上